

旧核融合フォーラムにおいて、平成14年度から平成18年度まで実施した活動や掲載などをご覧いただくため当面の間表示します。該当する最新の内容については、核融合フォーラムの発展継承となる [核融合エネルギーフォーラム](#) のホームページからご覧下さい。

○16:10 TBM(ITER 試験用ブランケットモジュール)

調整委員会 委員 (東京大学 教授) 田中 知

<質疑応答>

【桂井誠】 先進的なものを含めて、いろんな種類のブランケットを提案されているようだが、このブランケット実験は、結局、DT実験に入ってから行われると考えてよいのか。

【田中知】 ITERの運転の第1日目から入れていきたいと思っている。もちろん、そのとき間に合わないものについては後半から入れる。DT実験の前でも、磁場のこととか、さまざまな試験できることがあるので、各極がそれに向けて開発を進めている。

【桂井誠】 その最初のフェーズでは、トリチウム増殖やDT中性子を活用することはあまり考えずに、別の項目を試験するというのか。

【田中知】 テストブランケットモジュールは、設計通りにトリチウムが出てくるかどうかだけでなく、入れた状態で、いろんな電磁場の中でもつかとか、前の段階において、いろいろな試験すべき項目がある。これには各極の競争という面もあって、これが将来の世界標準になっていく可能性もあるため、負けたくないようにしたい。

【桂井誠】 DT実験が始まると試験体の交換が大変難しくなる。先進的なブランケットとかいろいろ言われていたが、信頼性をもって設置したり取り外したりという技術が難しくなってくると思う。その辺のエンジニアリングサイドからの可能性についても、きちんと評価されることになるのか。

【田中知】 もちろん、各極の責任で、それらを設置し、取り外すことができるように進めることになる。

【桂井誠】 遠隔操作なども当然、必要になってくるのか。

【田中知】 その通りである。これに関する詳細については、原子力機構の秋場さんに説明をお願いしたい。

【秋場真人】 普通のITERのブランケットの場合には、真空容器の中に軌道展開してビークルを使って交換するわけだが、テストブランケットについては、ご指摘があったようにトリチウムを中に入れている場合もあるので、ビークルを使わず、水平ポートの後ろの方に直接引き出すという遠隔操作を考えている。そういう意味では、どうやって交換するかというシナリオも含めて、技術的な検討を進めているという状況である。